

余白

地層区分の妥当性確認の流れ

○R2.4.16審査会合における指摘を踏まえ、南側壁面及び南側壁面の背後法面に認められる斜面堆積物(Ts3ユニット)の地層区分の妥当性を確認するため、当該層並びに上位の盛土、下位の海成堆積物等について、以下の各種観察・分析・測定を追加で実施した。

2.2.1 地層区分の整理 (P63～P139参照)

- 南側壁面の背後法面の天端付近を対象に、おおよそ等間隔で代表壁面を選定し、各堆積物及び盛土の層相確認を行い、その特徴を整理した。
- 各堆積物及び盛土の特徴に基づき、詳細スケッチを作成した。

2.2.2 地層区分の妥当性 (P140～P208参照)

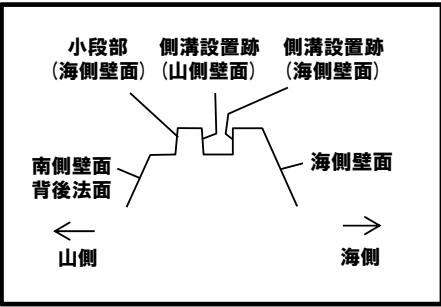
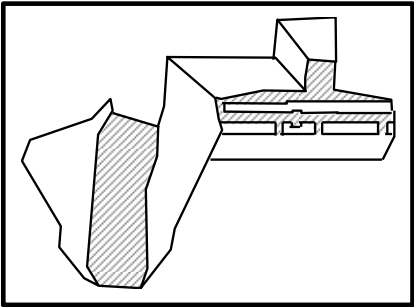
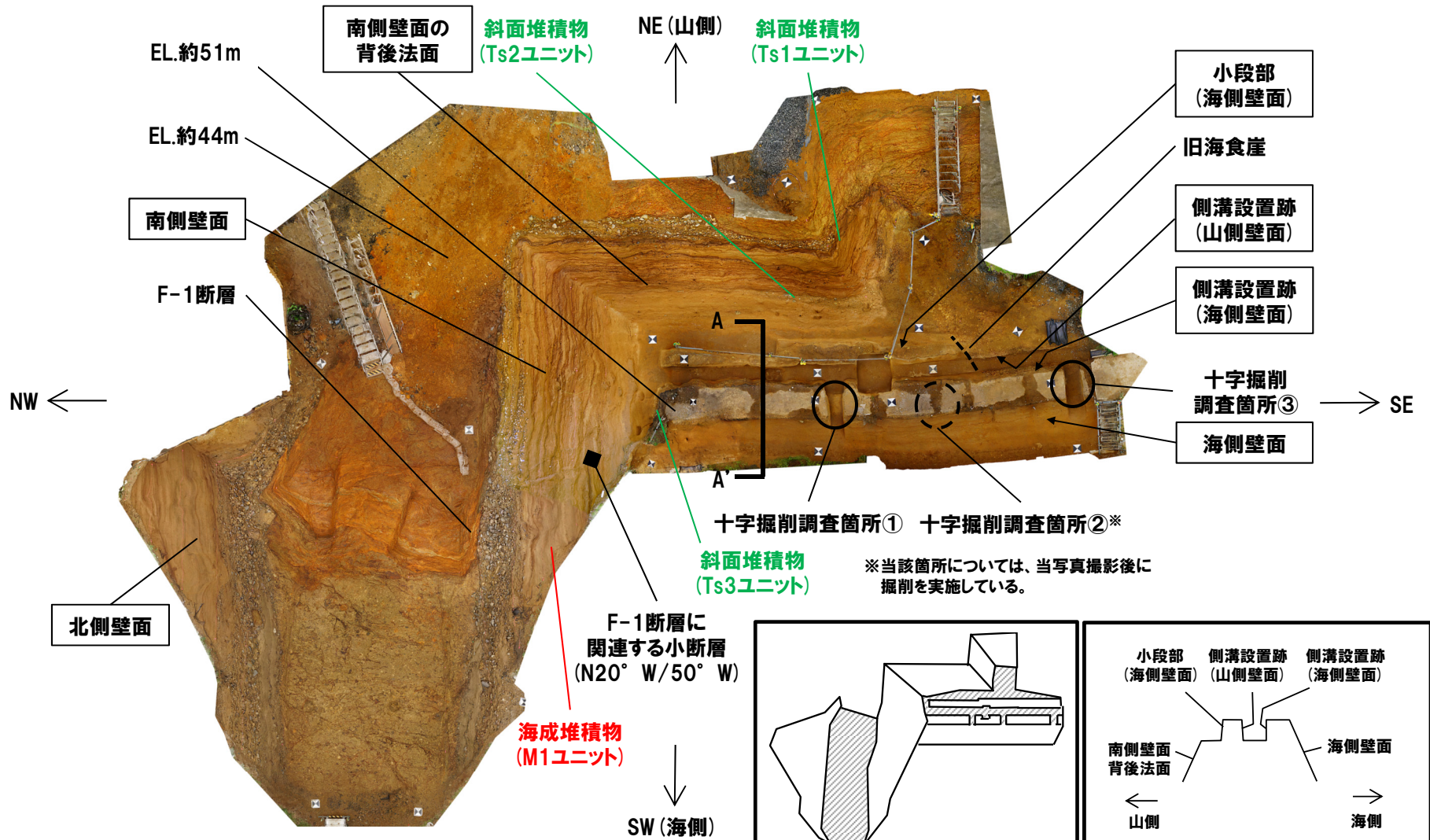
- 地層区分の妥当性を確認するため、以下の観察・分析・測定を実施した。
 - ・薄片観察 (P140～P167参照)
 - ・硬度測定 (P168～P176参照)
 - ・火山灰分析 (P177～P183参照)
- また、斜面堆積物(Ts1ユニット、Ts2ユニット及びTs3ユニット)の地層区分の妥当性を確認するため、追加調査箇所に認められる斜面堆積物について、以下の観察・分析を行い、比較を実施した。
 - ・層相確認 (P185～P195参照)
 - ・礫種・礫の形状調査 (P196～P201参照)
 - ・火山灰分析 (P202～P208参照)
- 上記観察・分析・測定の結果、各地層区分は妥当であることを確認した。

2.2.3 南側壁面への連続性 (P210～P215参照)

- 南側壁面の背後法面と南側壁面との連続性を確認した。

2.2 開削調査箇所(南側)に認められる斜面堆積物の検討

開削調査箇所(南側)の全体俯瞰図

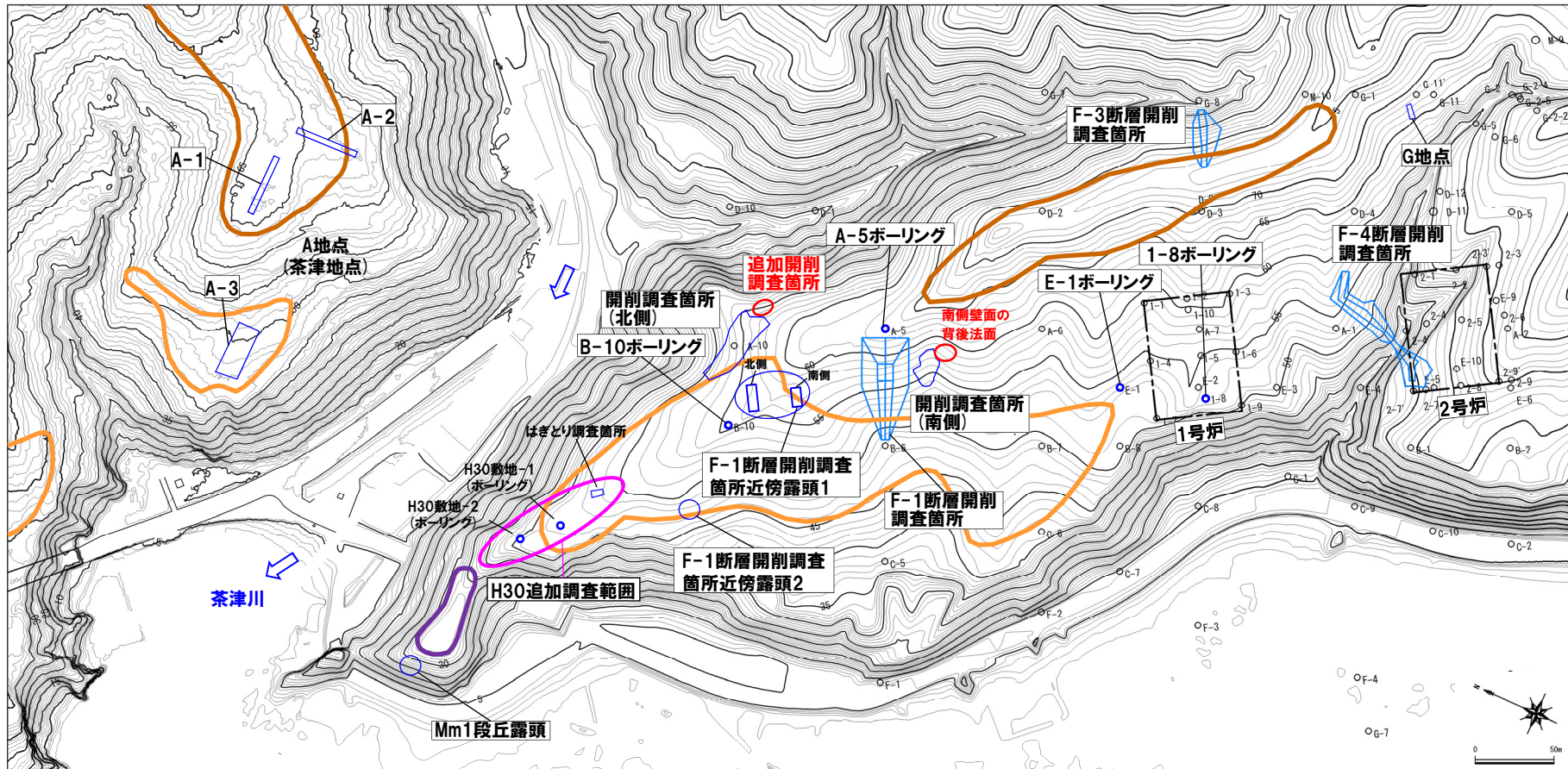


開削調査箇所(南側) 露頭状況

2.2 開削調査箇所(南側)に認められる斜面堆積物の検討

F-1断層開削調査箇所付近の調査位置図

一部修正 (H31/2/22審査会合)



調査位置図 (変更前の地形)

当図は、国土地理院1976年撮影の空中写真を
使用した空中写真図化により作成 (1mコンター)

調査箇所	現況	調査箇所	現況
F-4断層開削調査箇所	×	A地点	○
F-1断層開削調査箇所	×	G地点	○
F-1断層開削調査箇所近傍露頭1	○	F-3断層開削調査箇所	×
F-1断層開削調査箇所近傍露頭2	×	Mm1段丘露頭	×
H30追加調査範囲	○		
開削調査箇所(北側)	●		
開削調査箇所(南側)	●		

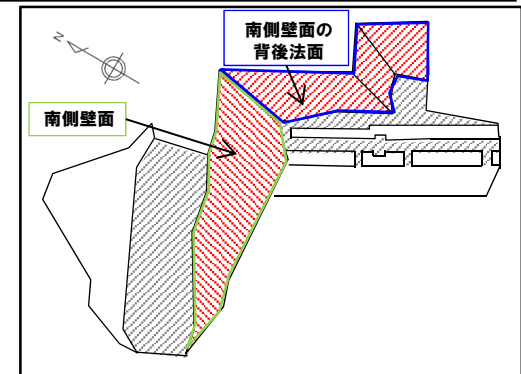
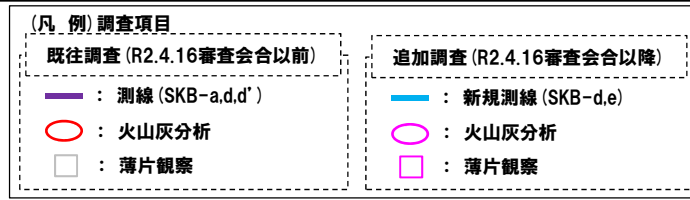
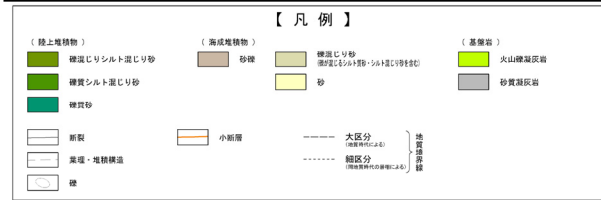
【凡例】

	Mm1段丘面		原子炉建屋設置位置
	Hm3段丘面		鉛直ボーリング
	Hm2段丘面		

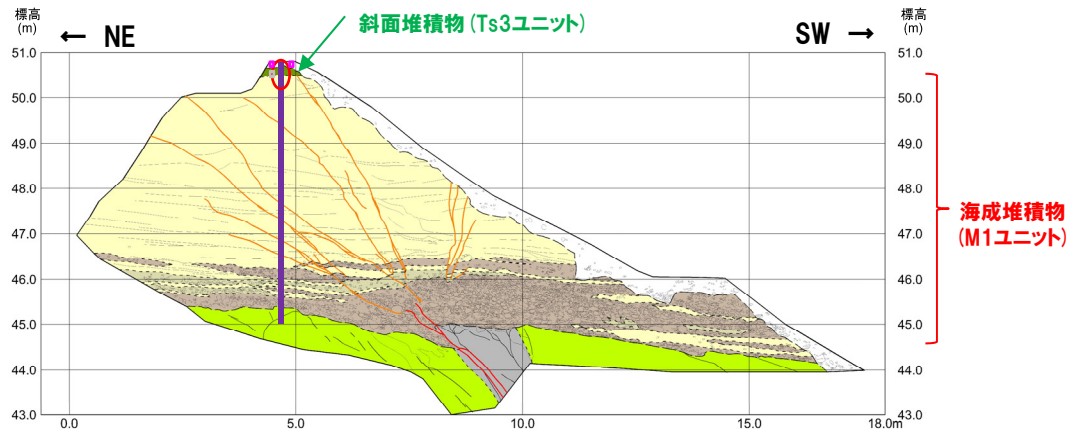
● 現存 (H31.2.22審査会合後の追加調査箇所)
○ 現存
× 変更に伴い消失

2.2 開削調査箇所(南側)に認められる斜面堆積物の検討

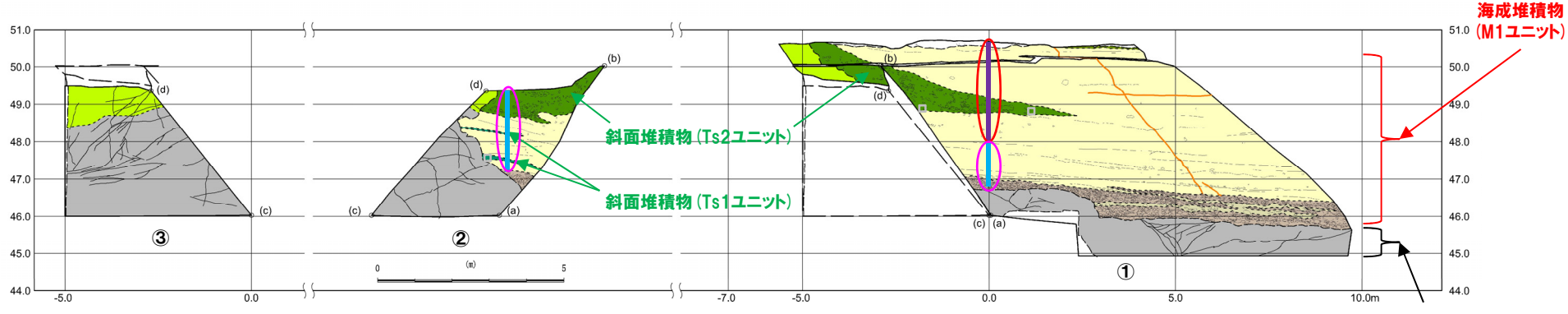
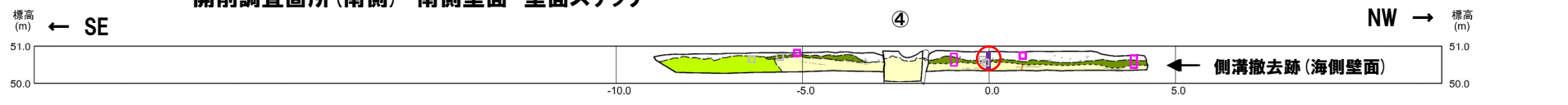
薄片観察・硬度測定・火山灰分析位置



位置図



開削調査箇所(南側) 南側壁面 壁面スケッチ



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ

基盤岩

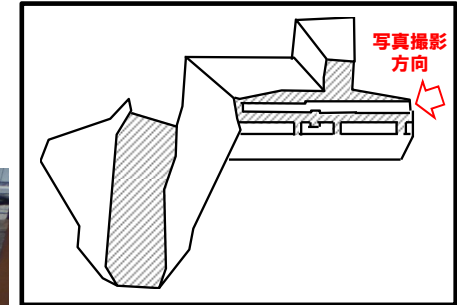
余白

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-位置図-

はぎとり転写試料作成箇所①~④

層相確認実施箇所①~③



平面図

令和2年6月撮影

SE ↙

開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 天端付近 位置図(山側から海側を望む)

余白

2.2.1 地層区分の整理

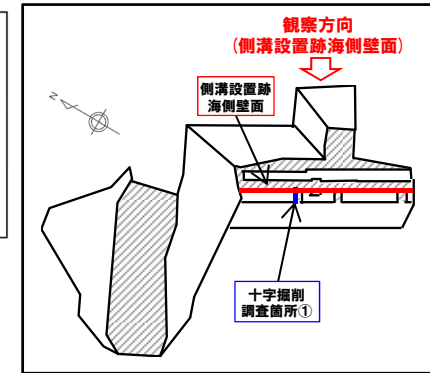
①層相確認-南側壁面の背後法面 層相確認及びはぎとり転写試料作成位置-

(凡例) 調査項目
 追加調査 (R2.4.16審査会合以降)
 [赤枠] : はぎとり転写試料作成箇所
 [青枠] : 層相確認実施箇所

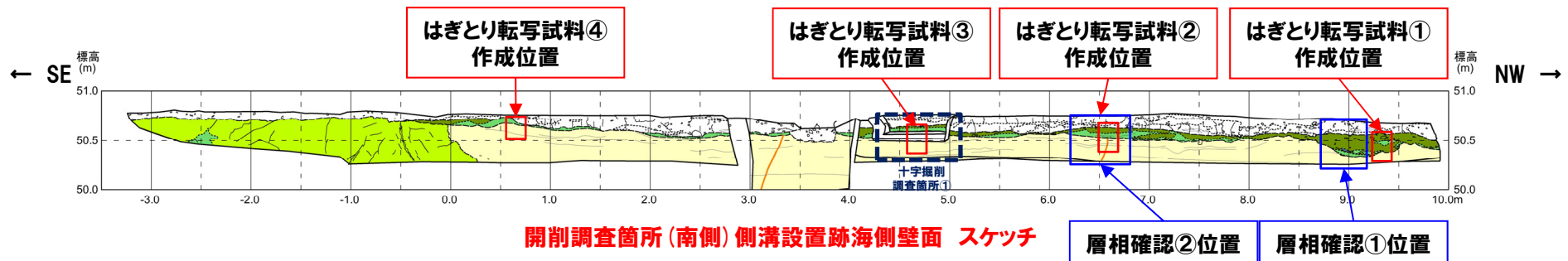
【凡例】

(陸上堆積物)	(海成堆積物)	断層
緑泥じりシルト混じり砂・シルト混じり砂礫	砂	葉理・堆積構造
シルト混じり砂・シルト質砂	(基盤岩)	礫
シルト	火山噴出灰岩	小断層
盛土		

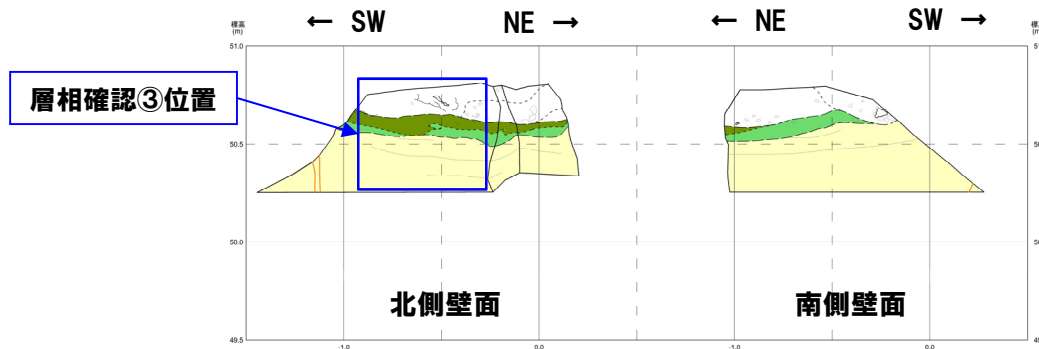
--- 大区分 (地質科による)
 - - - 細区分 (詳細資料の参照による)



平面図



開削調査箇所(南側)側溝設置跡海側壁面 スケッチ



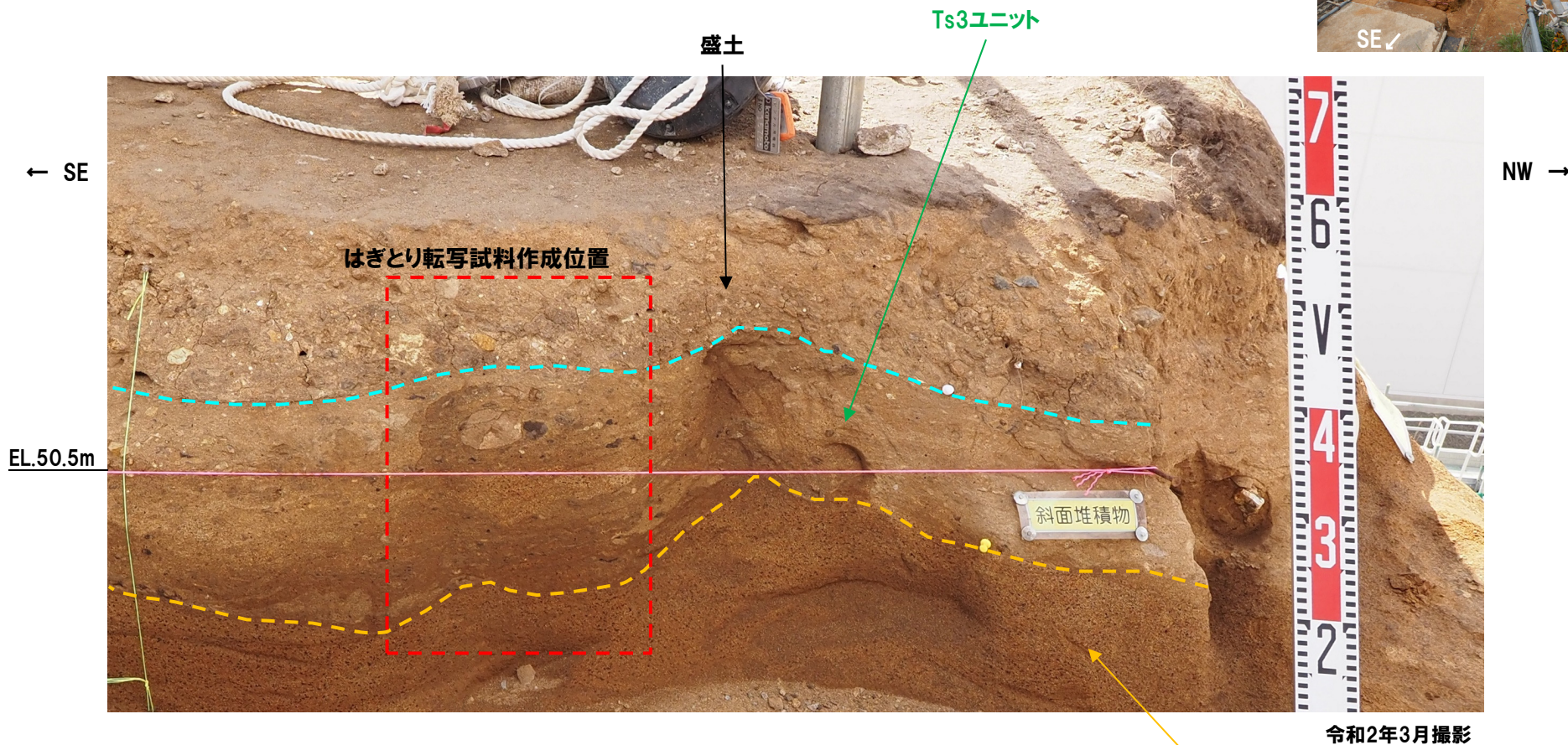
開削調査箇所(南側)十字掘削調査箇所① スケッチ

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料①(1/3)-

(凡例)

- 盛土基底面
- Ts3ユニット基底面



M1ユニット

前頁に示すスケッチにおける距離呈9m付近

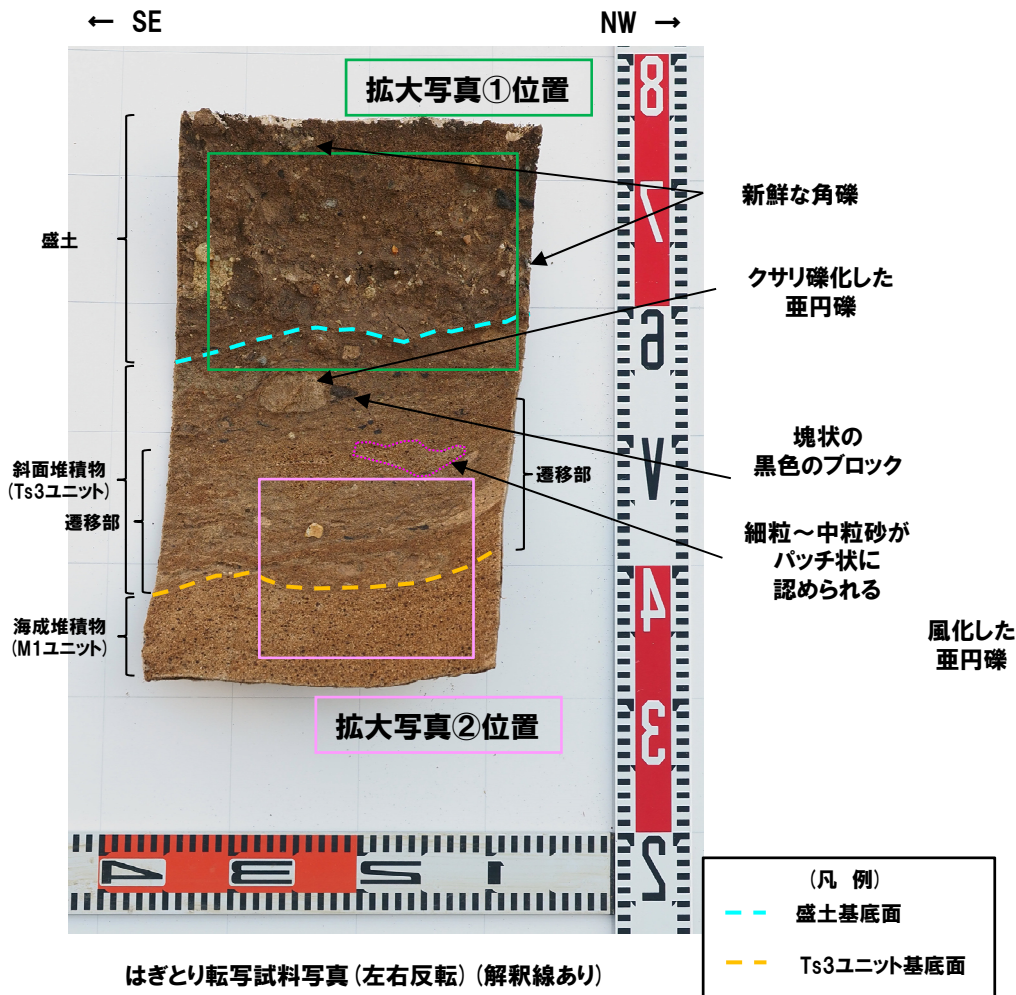
拡大写真(はぎとり転写試料①作成位置)

余白

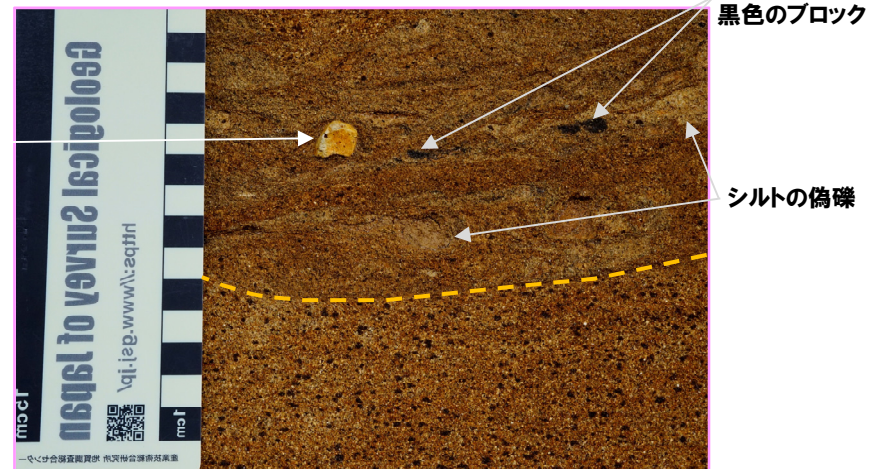
2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料①(2/3)-

- 海成堆積物 (M1ユニット) は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。
- 遷移部 (Ts3ユニット) は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に認められ、風化した亜円礫が点在する。またシルトの偽礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。基底面は下位の海成堆積物を侵食している。
- 斜面堆積物 (Ts3ユニット) は暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、クサリ礫化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は暗褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じる。



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

2.2.1 地層区分の整理

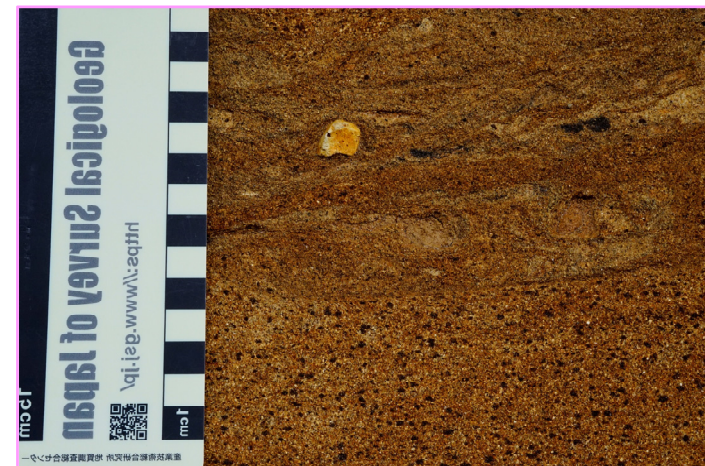
①層相確認-はぎとり転写試料①(3/3) -



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

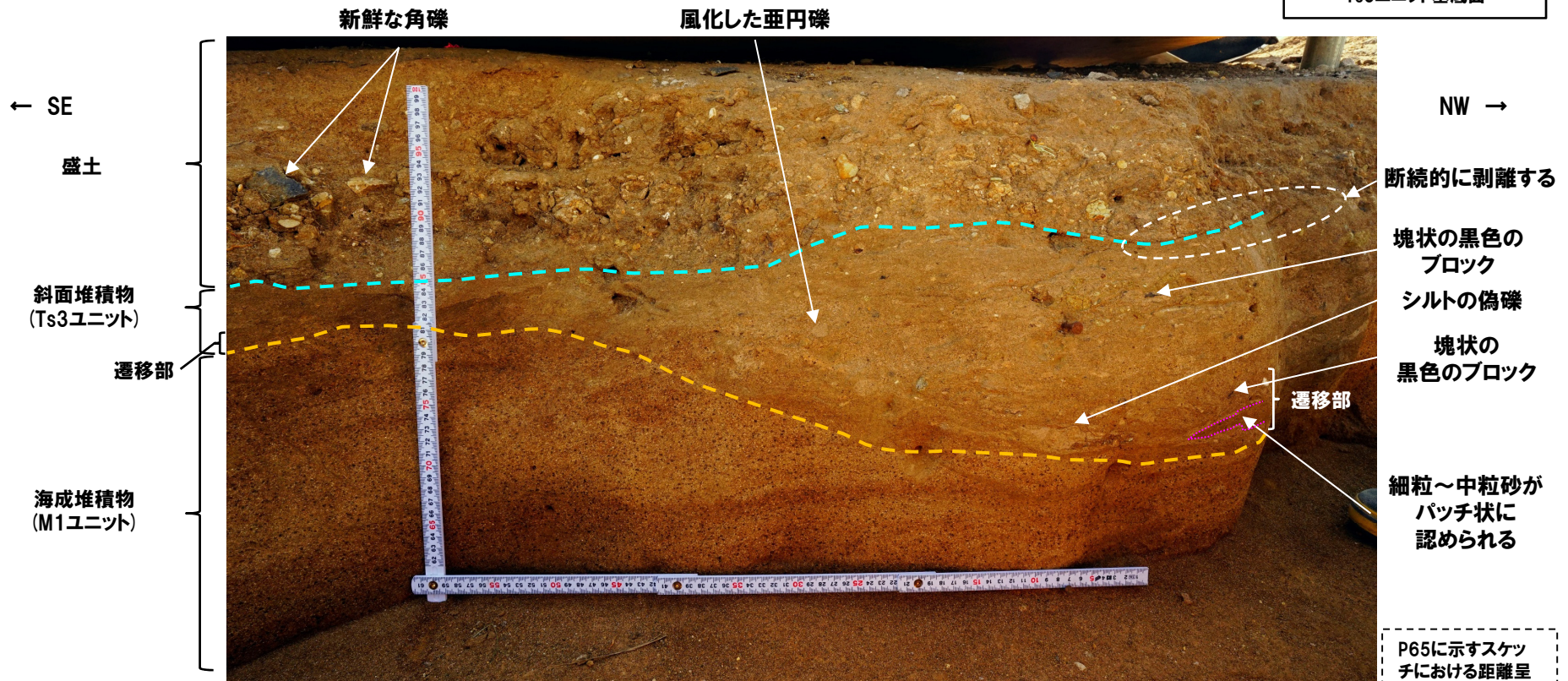
2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認①)(1/2)-

- 海成堆積物(M1ユニット)は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。局所的に葉理が認められる。
- 遷移部(Ts3ユニット)は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に認められる。またシルトの偽礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。基底面は下位の海成堆積物を侵食している。
- 斜面堆積物(Ts3ユニット)は暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は暗褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、層相の差異により境界は明瞭であり、断続的に剥離する。



- (凡例)
- 盛土基底面
 - Ts3ユニット基底面



断続的に剥離する

塊状の黒色の
ブロック
シルトの偽礫塊状の
黒色のブロック細粒～中粒砂が
パッチ状に
認められるP65に示すスケッチ
における距離呈
9m付近

令和2年6月撮影

拡大写真(層相確認①位置(解釈線あり))

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認①)(2/2)-



← SE



NW →

拡大写真(層相確認①位置(解釈線なし))

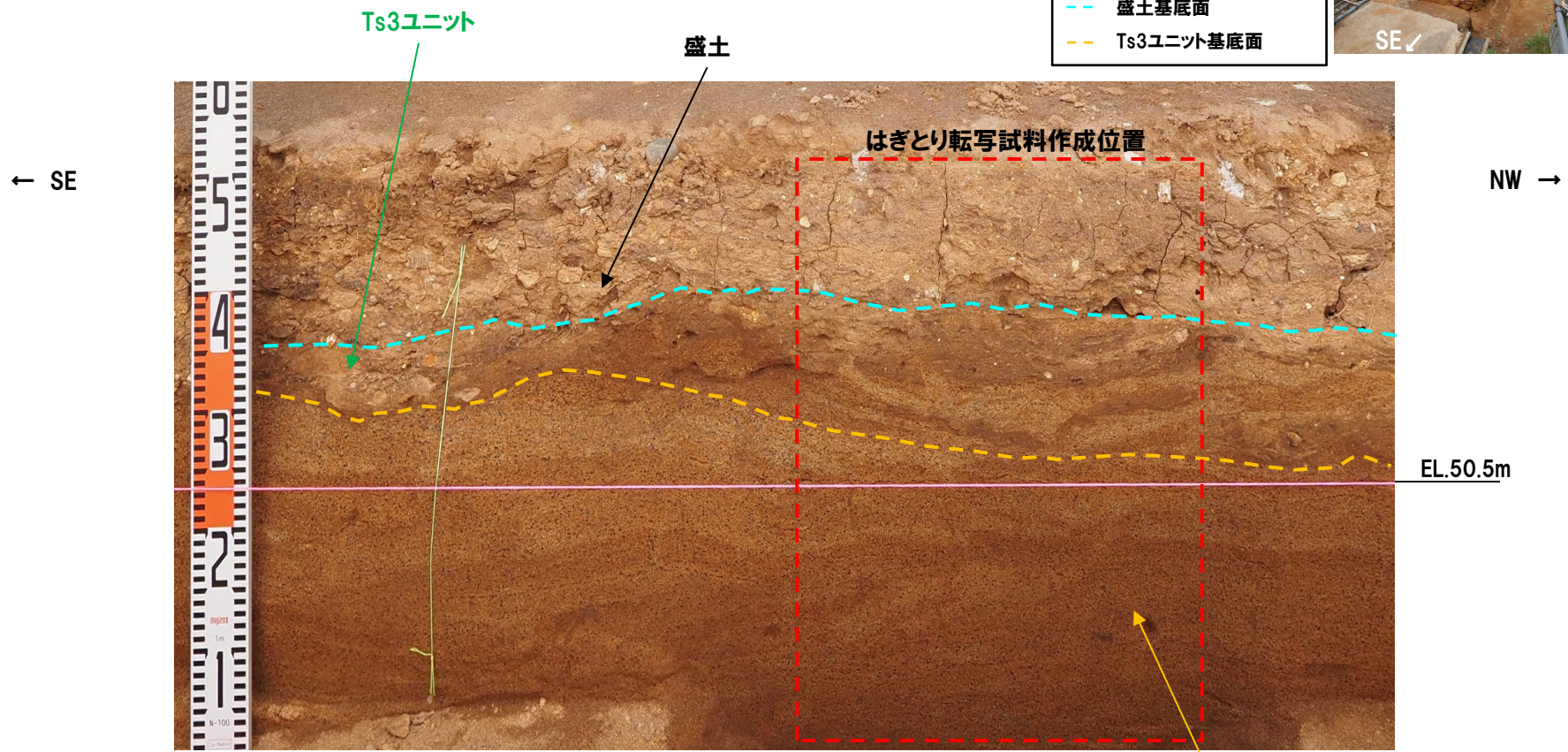
令和2年6月撮影

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料②(1/3)-



- (凡例)
- - 盛土基底面
 - - Ts3ユニット基底面



令和2年3月撮影

M1ユニット

P65に示すスケッチにおける距離呈6.5m付近

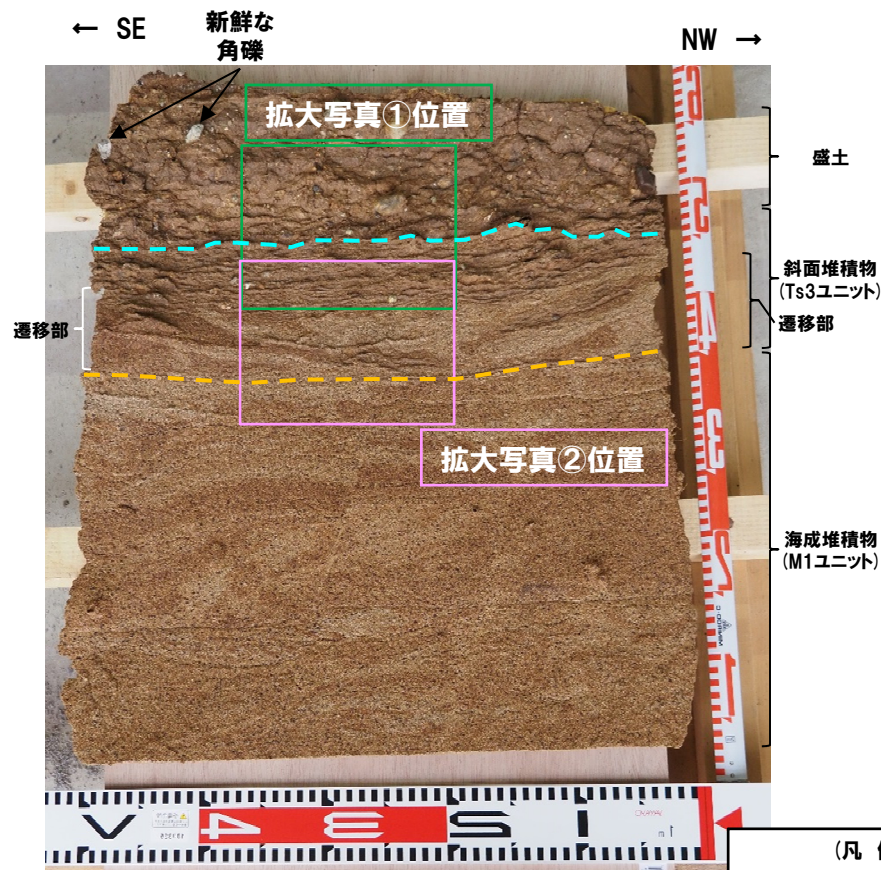
拡大写真(はぎとり転写試料②作成位置)

余白

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料②(2/3)-

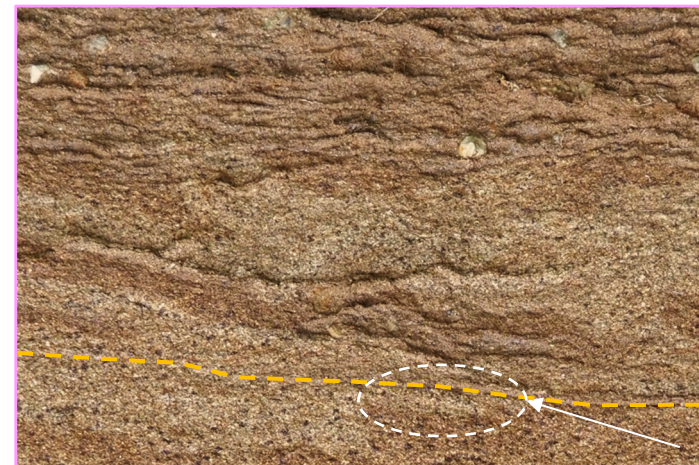
- 海成堆積物 (M1ユニット) は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部 (Ts3ユニット) は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細かい堆積構造が認められる細粒～中粒砂からなり、局部的にシルトが認められる。また基底面は下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 斜面堆積物 (Ts3ユニット) は褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫が混じる。
- 盛土は暗褐灰色を呈する礫混じり砂で、新鮮な角礫が混じり、不均質な層相を示す。



風化した
亜円礫



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

葉理を
侵食している

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料②(3/3) -



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

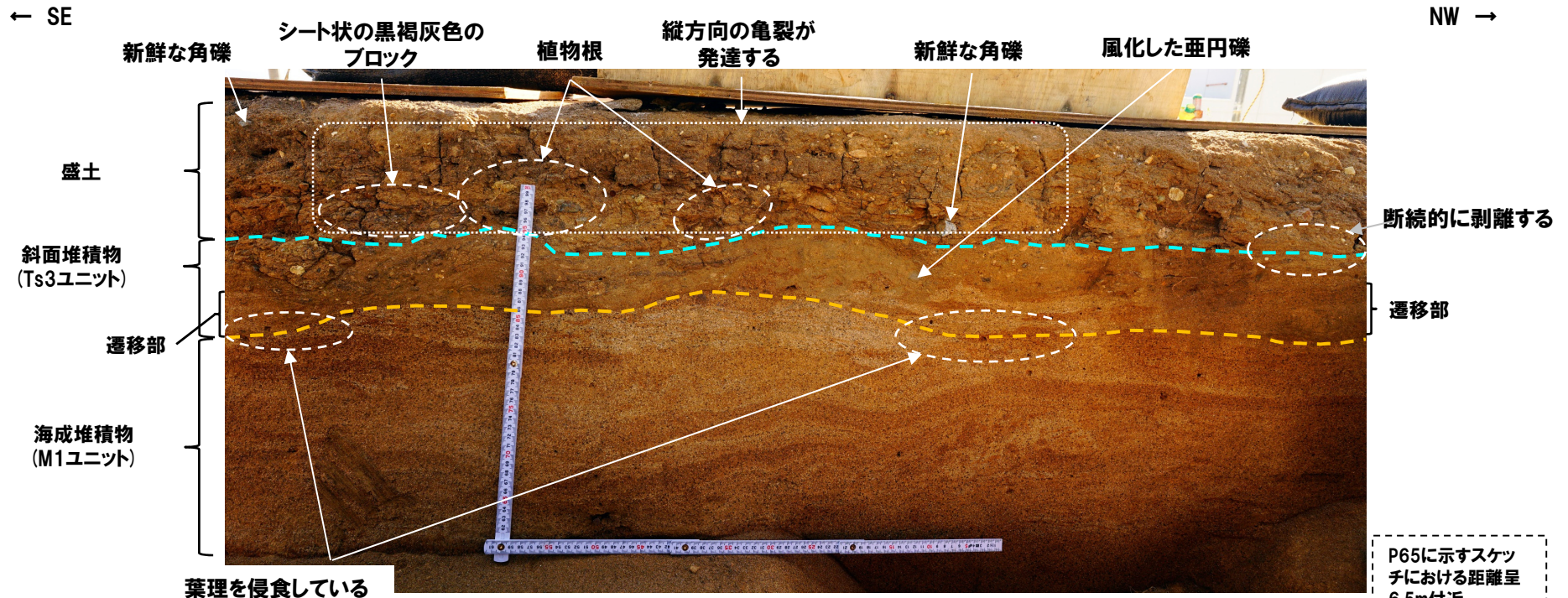
2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認②)(1/2)-

- 海成堆積物(M1ユニット)は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部(Ts3ユニット)は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細かい堆積構造が認められる細粒～中粒砂からなり、局部的にシルトが認められる。また基底面は下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 斜面堆積物(Ts3ユニット)は褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫が認められる。
- 盛土は暗褐灰～黒褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、斜面堆積物に比べ植物根が多く認められる。また基底付近にはシート状の黒褐灰色のブロックが認められ、縦方向の亀裂が発達し、層相の差異により境界は明瞭であり、断続的に剥離する。



- (凡例)
- 盛土基底面
 - Ts3ユニット基底面



葉理を侵食している

令和2年6月撮影

拡大写真(層相確認②位置(解釈線あり))

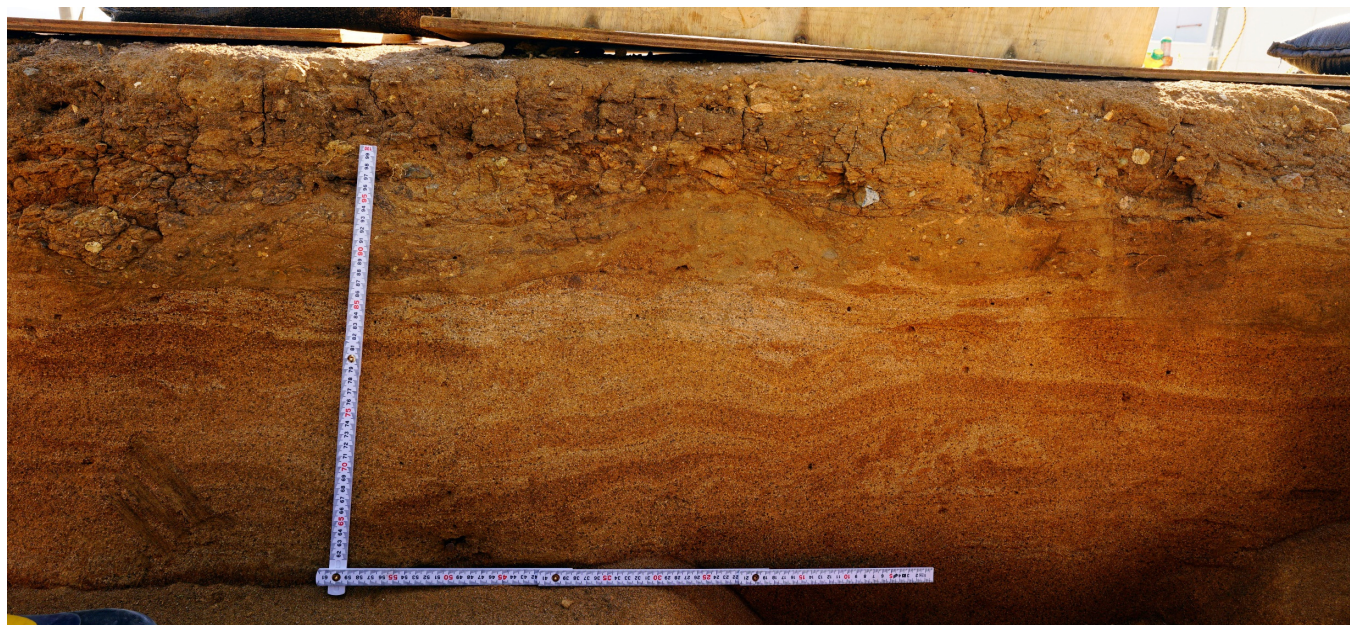
2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認②)(2/2)-



← SE

NW →



拡大写真(層相確認②位置(解釈線なし))

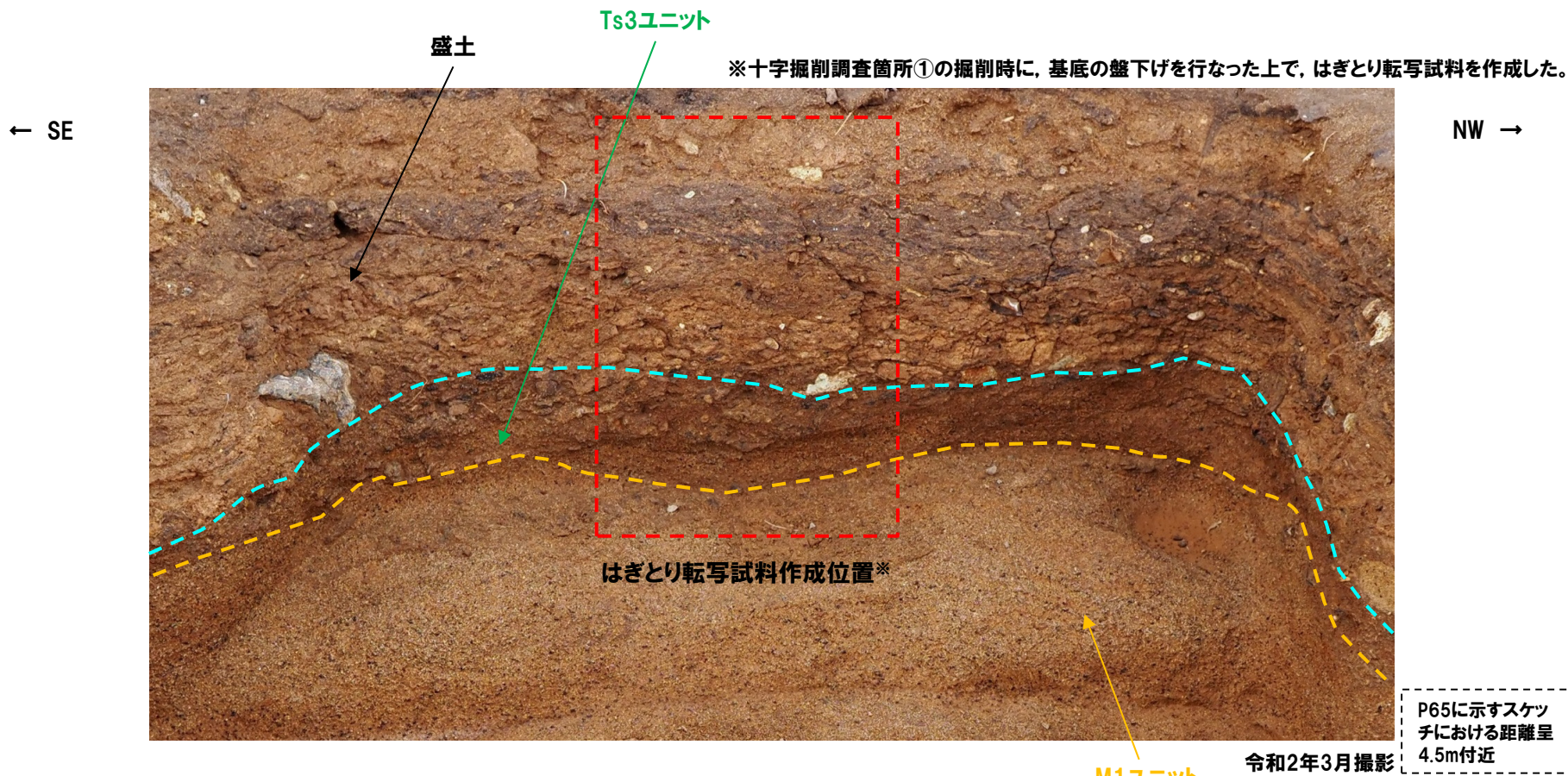
令和2年6月撮影

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料③(1/3) -

(凡例)

- - - 盛土基底面
- - - Ts3ユニット基底面



拡大写真(はぎとり転写試料③作成位置)

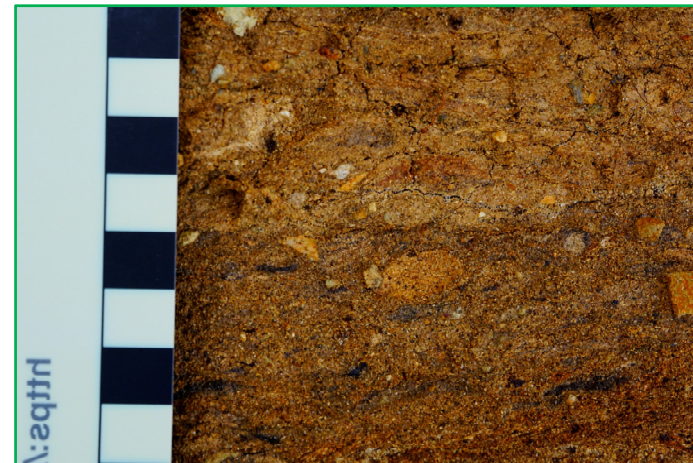
余白

2.2.1 地層区分の整理

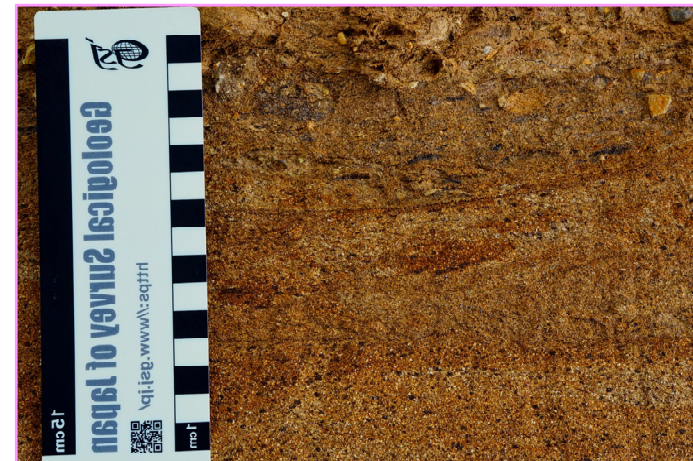
①層相確認-はぎとり転写試料③(3/3) -



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

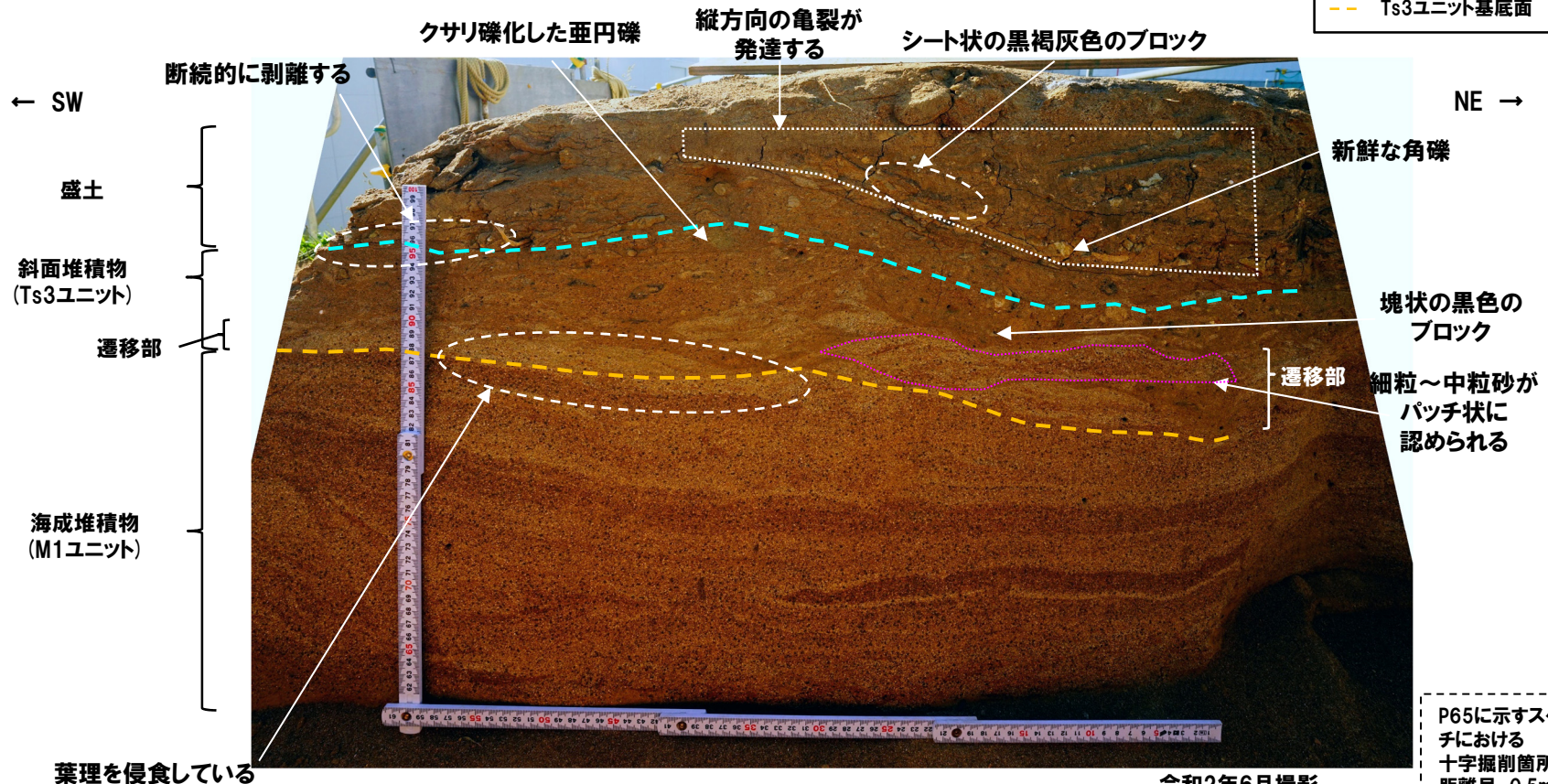
2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認③)(1/2)-

- 海成堆積物(M1ユニット)は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部(Ts3ユニット)は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に認められる。下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 斜面堆積物(Ts3ユニット)は暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、クサリ礫化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂～シルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じる。またシート状の黒褐灰色のブロックが認められ、縦方向の亀裂が発達し、層相の差異により境界は明瞭であり、断続的に剥離する。



- (凡例)
- 盛土基底面
 - Ts3ユニット基底面



拡大写真(層相確認③位置(解釈線あり))

令和2年6月撮影

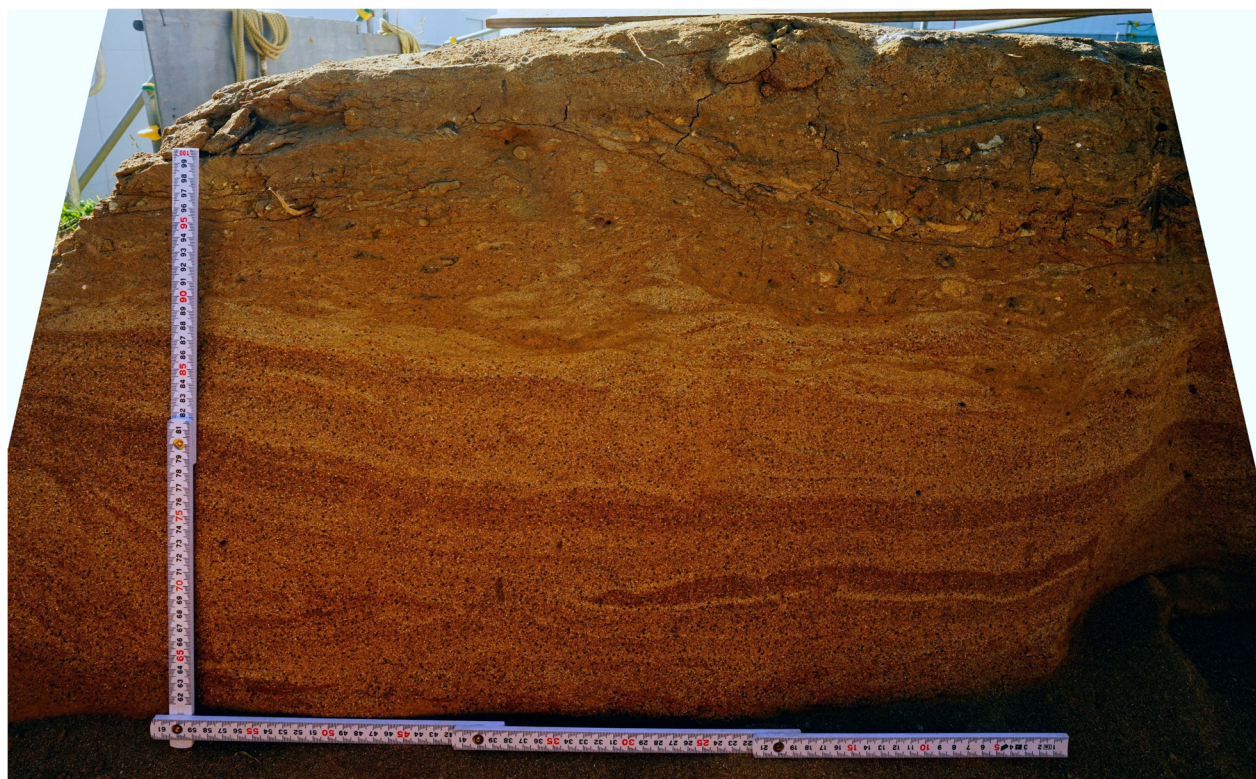
P65に示すスケッチにおける
十字掘削箇所①
距離呈-0.5m付近

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認③)(2/2)-



← SW



NE →

拡大写真(層相確認③位置(解釈線なし))

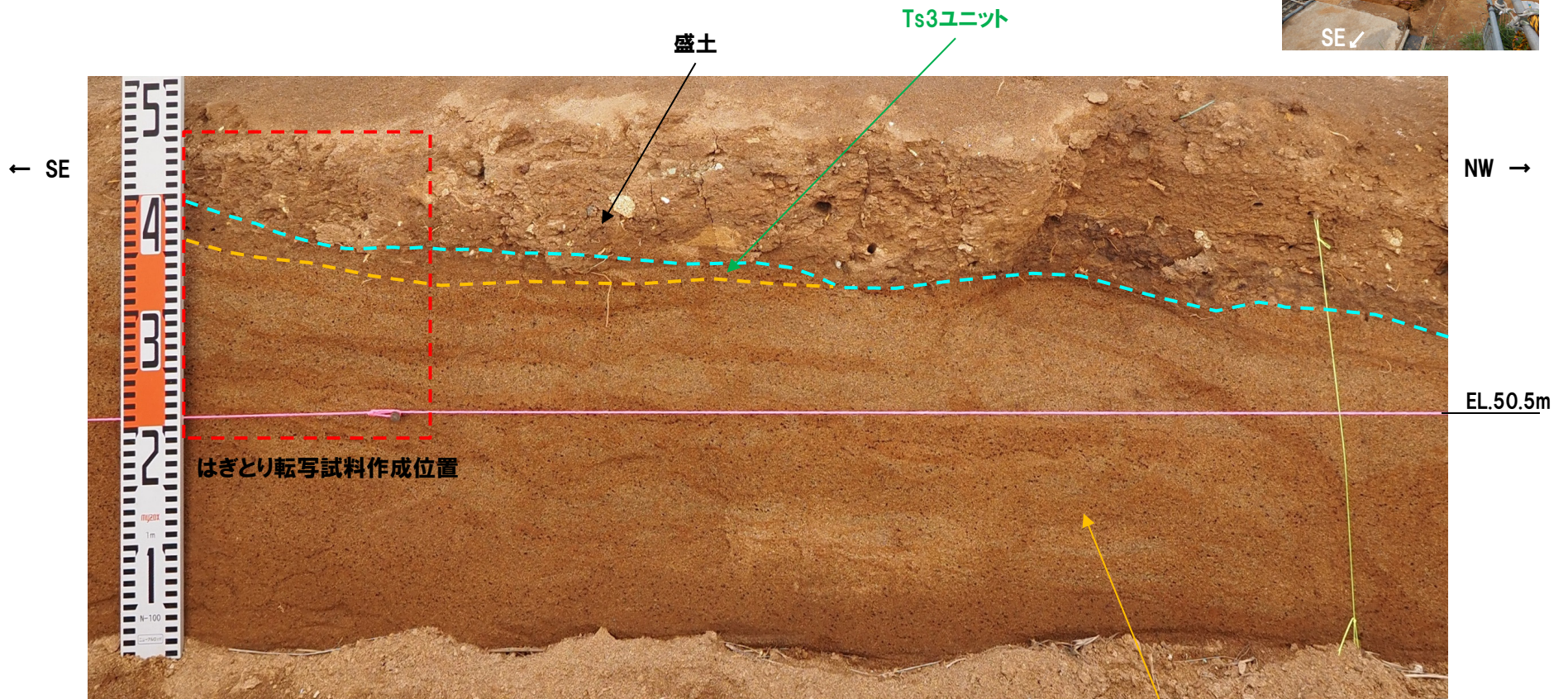
令和2年6月撮影

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料④(1/3)-

(凡例)

- 盛土基底面
- Ts3ユニット基底面



令和2年3月撮影

M1ユニット

P65に示すスケッチにおける距離呈0.5m付近

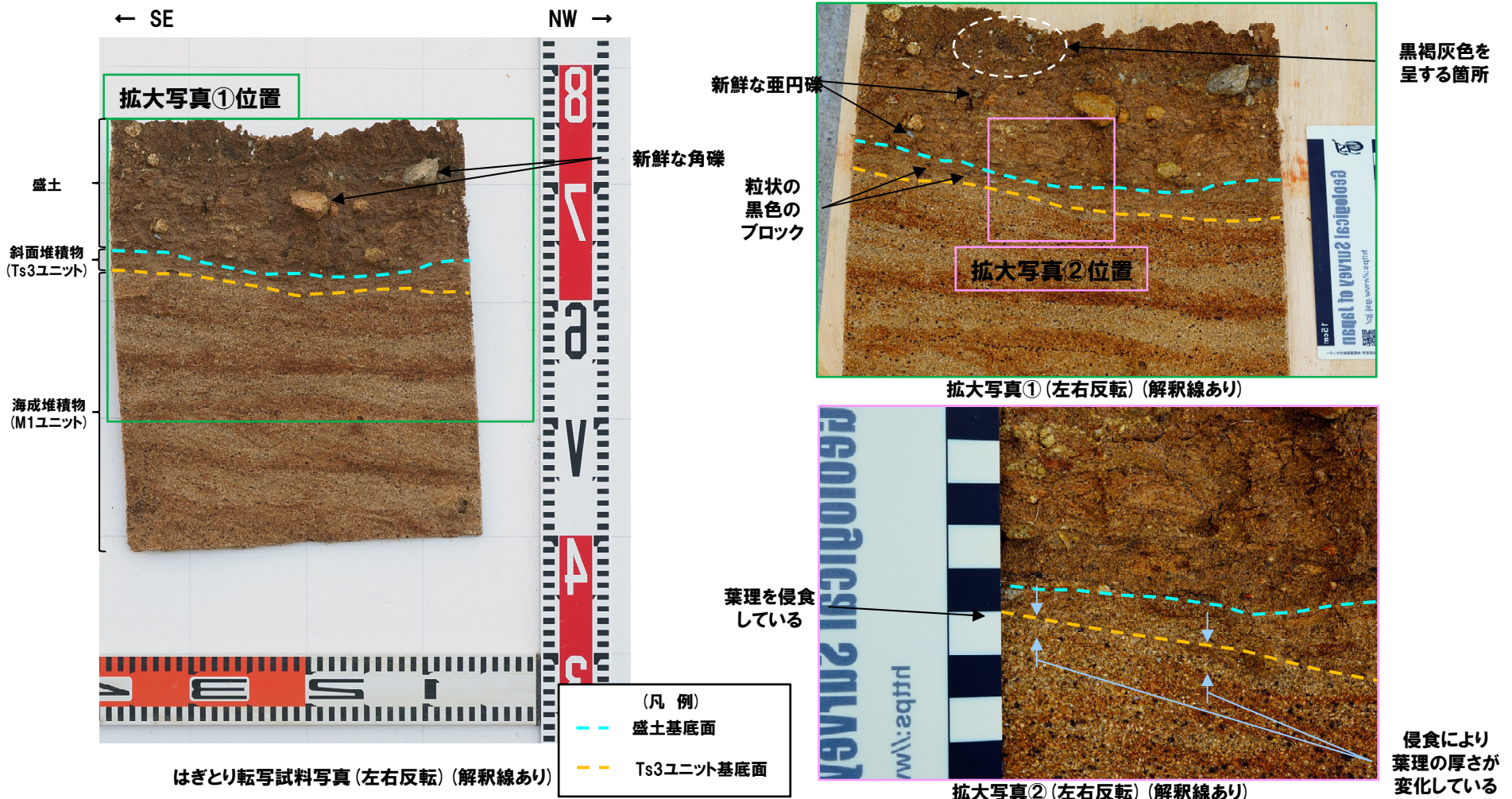
拡大写真(はぎとり転写試料④作成位置)

余白

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料④(2/3)-

- 海成堆積物 (M1ユニット) は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部 (Ts3ユニット) は分布しない。
- 斜面堆積物 (Ts3ユニット) は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、粒状の黒色のブロックが認められる。また下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 盛土は暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じりシルト質砂であり、不均質な層相を示す。新鮮な角～亜円礫が混じり、黒褐灰色を呈する箇所が認められる。



2.2.1 地層区分の整理

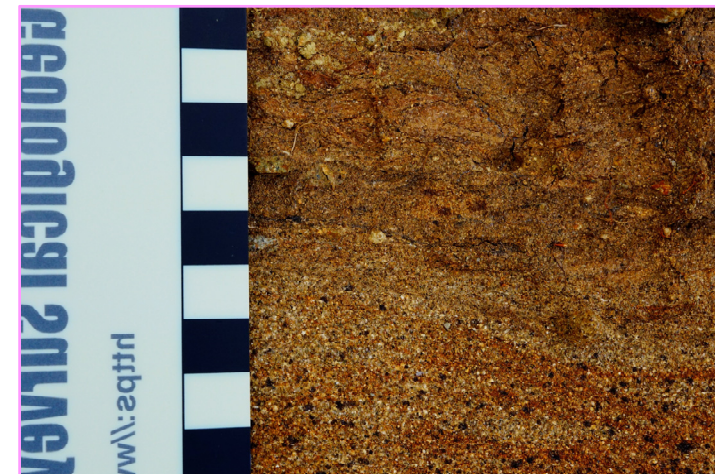
①層相確認-はぎとり転写試料④ (3/3) -



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



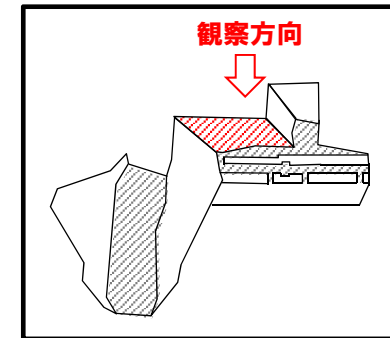
拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

2.2.1 地層区分の整理

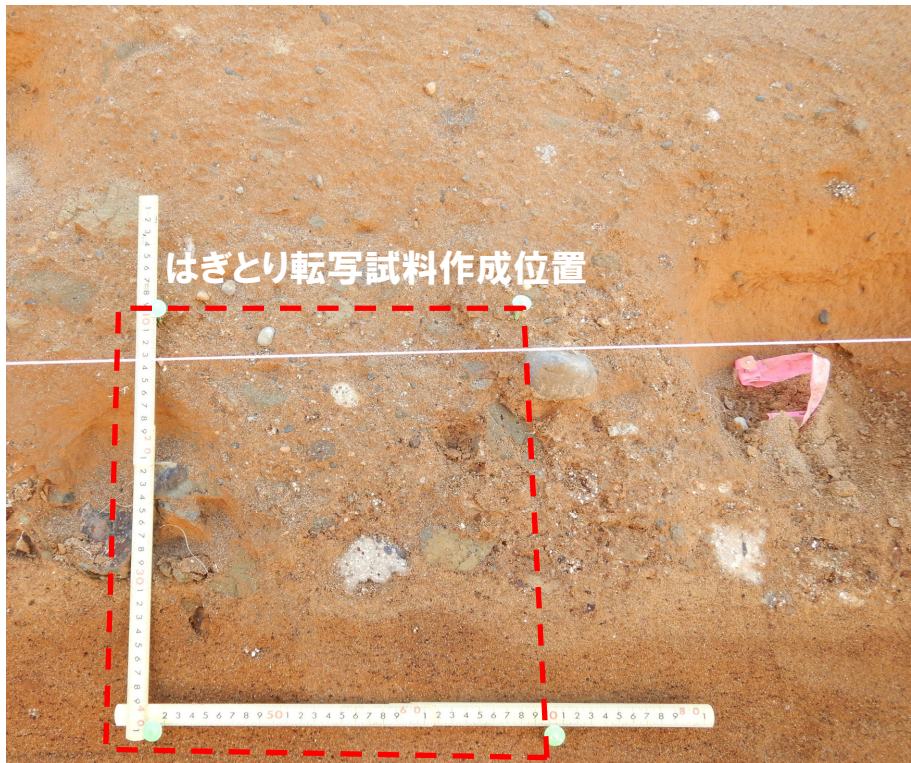
①層相確認-はぎとり転写試料(Ts2ユニット①)(1/3)-



平面図

← SE

NW →



壁面写真

斜面堆積物 (Ts2ユニット)

EL.49.0m

